

令和2年度第1回浜松市森林・林業未来構想会議 報告書

- 1 日 時 令和2年7月1日(水) 10:00~12:00
- 2 場 所 ホテルコンコルド3階「葵花葵」
- 3 参加者 23名(委員17名、オブザーバー2名、事務局4名/別添資料のとおり)
- 4 概 要

- 本会は、森林環境譲与税の活用計画策定に向け、地元の林材業関係者等と十分議論し、関係者等の意見聴取の場として今年度新設したもの。
- 第1回目となる今回は、制度概要及び本市の令和元年度活用実績、令和2年度活用予定の説明及び意見交換を実施。

5 内 容

(1) あいさつ/山下文彦農林水産担当部長

- 本会議は、森林環境譲与税の活用方法等について、幅広い意見をいただくために開催するもので、本会議における御意見を参考に、令和3年度以降の活用計画を作成予定。
- 本日含め、本年9月上旬頃までに3回程度開催していく予定。
- 昨今の森林・林業を取り巻く環境は、森林環境譲与税の創設や森林経営管理法等の新たな風が吹き、かなり目まぐるしい変化。
- とりわけ、森林環境譲与税は、本年度から前倒して増額配分され、令和6年度には満額配分となる予定。本市には令和6年度以降の譲与税は、年間4億円を超えることが見込まれ、森林整備等の貴重な財源となる。
- こうしたことから、皆様方には、中・長期的及び俯瞰的な視点を持って、浜松地域における森林・林業がどうあるべきか、森林環境譲与税をどう活用すべきかなどの意見をいただきたい。

(2) 会議スケジュールについて

- 次第裏面「会議スケジュールについて」のとおり、今年度3回開催予定。市では、会議での意見を踏まえ、森林環境譲与税の活用計画を作成予定。

(3) 議題

- ① 森林環境税及び森林環境譲与税の概要について/事務局
※ 資料1、2を基に説明
- ② 浜松市における森林環境譲与税の活用状況について
※ 資料3を基に説明
- ③ 意見交換(現状把握、将来像等)
※ 資料4を参考に、各委員から発言
鈴木将之氏)所有森林(約60ha)の伐採等を生業にしている。現在、市

内で整備されていない森林が増えている。街に住む人に山を整備することの意味を理解してもらう必要がある。雨が多く降ると整備されていない山の表土が流れ、林道崩壊等により、命が脅かされる可能性があり、下流域の人にも被害があることを理解してもらいたい。新たに林業をやりたい人やIターンへの支援が必要。支援があれば、林業への定着、地域への定住が進むと思う。

前田氏) 譲与税は、市全体のみどりのブランディングのために活用すべき。人工林だけでなく街中のみどりや三方原や海辺の防風林にも活用し、市外の人が浜松市のみどりを見た時、どのように映るかを意識する。街中に遊べる場所がなく、山に遊びに行きたいという声があるため、天竜にフィールドを整備し、受け入れ体制を築ければ、人工林以外の多面性が確保され、ブランディングに繋がると思う。

宮澤氏) みんな頑張っているが、山に人が足りない。林道においては、崩れてからの整備ではおそく、崩れる前に整備することが必要。現状、新型コロナウイルスの影響で雇用を守ることに必死。

和田氏) 譲与税の活用に関しては、市はよくやっていると思う。一昨年の台風の際、我が家ではライフラインが1週間止まった。生活にも木材生産にも繋がる基盤整備（林道維持整備）は非常に重要。担い手の確保が重要だが難しい。新型コロナウイルスの影響で木材生産の調整を行っている。

望月氏) 新型コロナウイルスの影響で木材が売れず困っている。このような時期だからこそ、悪い部分（弱点）が見えてくる。総括すると基盤整備と人材確保が課題だと思料。また、新しいフィールド整備への投資も必要。

岡部氏) 川上、川中、川下の連携は、以前より川上・川中は良くなっているが、川下との繋がりには難しい。天竜材を売るためには、もっと連携が必要。このはなアリーナの納材時は商社が担ったが、川上から川下をコーディネートする人が必要。

高林氏) 若手が育たないことが課題。4、5年で辞めることが多い。木材が好きで職に就くケースは稀で、林業・木材産業に就職するということが特殊な時代となり、若い人材の定着が難しい。材木を見なくても顧客に商品を届けられるようになり、材木のプロが少なくなった。業界を挙げ、切磋琢磨して成長できる人材育成が必須である。

鈴木宏昭氏) 天竜材の価格が外材より高く、良い材だが高価なため利用できないという人がいる。補助金を活用するハードルが高い。また、補助金を使っても外材の方が安いこともあるため、もっと天竜材が使い易くなるような制度があれば良い。

石野氏) 製材業者は減少している。林業は、作業員としてなら入れるが、森林をクリエイトする人の新規参入が難しいため、新規参入を推進す

る制度が欲しい。補助率について、九州が手厚いと聞くので、浜松市も検討いただきたい。コロナ禍により、川上と川下のミスマッチが生じているため、川上は川下が必要とする製品を汲み取る必要がある。「住宅はみんな FSC 認証材」「山の道が整備されている」など、本地域独自の「スゴイ」を目指したい。

須山氏) 価格面で天竜材が使い易くなると良い。建設業も人手不足だが、ICT やデジタルスキャナなど、デジタル機器を使用し対応している。林材業界もそれに目を向けるべきでは。また、譲与税は、令和元年度の問題点等があったと思うので、その改善を検討されたい。

村松氏) 設計の立場から、戸建て住宅は木造だが、中高層や商業施設は木を使わない印象。この戸建て住宅以外での木材使用をどう増やすかが課題となる。外材使用が多い中、天竜材をなるべく使ってもらうような制度があると良い。実際に譲与税が始まれば世間の関心が増す。以前、浜松市で実施したウッドコレクションのような事業やコンペなど、木材利用を紹介するような取組があると良い。

鈴木健太氏) 環境教育等を実施しているが、有給対応のため負担が大きく、活動の限界を感じている。普及活動は、ボランティアに近いため仕事と呼べるものになるとよい。8月から所有森林での活動とした。鹿の食害が深刻。防護柵での防除がメインだが効果が低下している。防護柵設置の補助金はあるが、防ぎきれないので頭数制限も必要。業界のみでの対応は限界にきており、異業種との連携、協力が必要。

山田氏) 森林のプランニングが主で活動。学校の先生が生徒に木を伐ってはいけないと教えることもあるため、教育委員会のプログラムの中に地元産業（林材業）を知ってもらう講義の導入が必要。実際、先生対象の講座を行ったが評判が良かった。皆伐は、森林機能を低下させ、その後の費用もかかるため、山主の意欲がなくなると再生林に繋がらない。森林整備は、生態系や多様性に配慮しながら、譲与税を使って森林を活かしていくことが大事。

松下氏) グラフィックデザイナーであり林材業者ではない。森林・林業は、情報発信力はあるが伝わっていない感がある。森林は、見る方（街中）からすると見えず、林業（生業）だと更に見えてこない。環境教育を実施しているが、天竜はアクセスが悪い。受入組織として「天竜こころの森ネットワーク」を立ち上げた。象徴的なフィールドがあるとよい。

小林氏) 毎年最初の授業で学生に聞くと「木を伐ってはいけない」と考える学生が多い。そうではないことを発信することが必要。このはなアリーナでの木材利用は非常に好意的であり、適切に伝えれば適切に受け止めてくれるため、PR が大切。譲与税の用途を公表することは、多くの人に知ってもらうチャンス。

岩崎氏) 川上、川中、川下と区分するとバラバラに感じるため、一体感を目指すなら分けないほうが良い。昨年のもくもくまつりの際、鈴木将之氏の所有森林に行ったが、その際、学生は感動していた。学生は、木材市場に連れていっただけで感動する。そのような森林・林業を感じる「場所」が必要。難しいと思うが、松菱跡地に丸太を並べるだけでも街中の人は感動し、天竜材や山を認識してくれるのではないか。

石川氏) 建築が専攻で林業を学べる建築の授業ができればと思料。学生を山に連れて行ったが非常に感動し、建築専攻なのに林業に就職したいと考える学生がいる。現場の力を感じた。ファッションで木材を語る人がいるが、取り扱わなければ分からないことが多い。川下は鉄と同じように均質な木材を求めるが、川上・川中からの発信で川下に木は曲がったりくるったりすることもあることを分かってもらうことも必要。川下の意見だけで川上・川中が動くのも違うと思う。長いスパンで人材育成を行い、建築学生の意識も変えることができればと思う。

高木氏) 現在、森林のある山村は疲弊し、人はどんどん都市部に移動するが、森林環境税及び森林環境譲与税は全ての人に森林を考えてもらうためにできた税。天竜地域は歴史があり、FSCで他地域との差別化も図っている。今後、森林環境譲与税を活用し、産官学で連携した取組を行うことも必要。

太田氏) 森林環境譲与税の活用方法について、浜松市だけでなくこのように多くの人々の意見を聞いて検討していくことは大事。譲与税を活用しているわけではないが、3密対策の補助金(新しい生活様式支援天竜材活用事業)は良い制度だと思う。

山田氏) 実施した事業の効果検証等を行う必要があるため、令和3年度以降、年1回となっている会議の回数を増やしたほうが良いと思う。
→(市) 必要であれば開催回数を増やすことを検討する。

(4) その他

① 次回について/事務局

○ 次回は次の日程で開催(グループワークによる事業提案等を予定)

- ・ 日時 8月7日(金) 15時から
- ・ 場所 静岡県浜松総合庁舎 701、702 会議室

② 新しい生活様式支援天竜材活用事業について/事務局

※ 標記事業について関係資料を基に説明

令和2年度第1回浜松市森林・林業未来構想会議 会場の様子

